

白方の風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで
健やかに生きる児童の育成

令和7年度
No.8
東海村立白方
小学校
2025.5.23
児童数 450人

いよいよ明日は運動会です。「心を燃やしてくじけず進め 白方の頂点へ」のスローガンのもと、これまで練習してきた成果を存分に発揮しようと一人一人の児童がやる気に満ちあふれています。どうぞ運動会で、懸命に取り組む姿をご覧ください、これまでの練習のこを含めて、認め励ますお声かけをいただければと存じます。保護者の皆様の言葉が自信や自己肯定感を高める大きな力となります。

運動会後には、県や村の教育委員会の方々から学校にお越しになり、自分で問いを見出し、主体的に学習を進め、考える力や行動する力を高める本校の学習の様子をご覧ください、ご助言を得る機会があります。外部の皆様のご助言を得ながら、一人一人の児童が自分で考え、行動できる力を高めていけるよう努めて参ります。

これまでの練習の様子

～みんなで力と気持ちを合わせる大切さを学んできました。～

連休明けの5月9日(金)から全体練習を始めました。9日に開閉会式の整列の仕方、大玉送りの練習からスタートしました。大玉送りの練習は初めてでしたが、担当の先生の説明をよく聞いて紅白とも見事に大玉を送りトラック中央に置いた台に送り届けることができました。整列の仕方も1年生は、初めてでしたが、2年生以上の並び方を見習って整列することができました。

業間の時間にはリレーの練習を何度か行いスムーズなバトンの受け渡しができるよう声を掛け合い取り組んできました。各学年では障害走や団体種目の練習に、精一杯取り組むこと、仲間と協力して取り組むことを考えながら練習してきました。また、運動が苦手な人も仲間と共に活動できるよう助け合ってきました。どうぞ運動会ではそうした児童のこれまでの積み重ねの成果をご覧ください、存じます。



終戦から80年を迎えます。

～身近な地域でも戦争の被害がありました。～

茨城県の東には太平洋があり、80年前に終わった太平洋戦争の際には、東海村の北の日立市と南の勝田市(ひたちなか市)には沢山の工場があったため海上の戦艦からたくさんの砲弾が撃たれる艦砲射撃とよばれる攻撃がありました。その艦砲射撃は、1945年(昭和20年)7月17日深夜から7月18日未明に至るまで行われました。

この艦砲射撃では計18隻の戦艦が海上から攻撃をして、合計870発の16インチ対陸上砲弾が撃ちこまれました。

この砲弾の大部分は工場外の住宅地に落下し住宅の全壊637棟、半壊1059棟、死亡者317人、重軽傷者367人、行方不明者9人の被害を出しました。東海村にもこの攻撃の砲弾の欠片が落下しました。この戦争を含めた第2次世界大戦での被害者(戦後、戦争の後遺症捕虜中の飢餓で亡くなった方なども含む)は、5,000万人～8,000万人とされており当時の世界の人口の2.5%ともされているそうです。現在もイスラエル、ウクライナ、カシミール地方などで戦争や紛争が起きており、毎日亡くなっている方、家が壊されてしまった方がおられます。暴力や武力によってかけがえない人の命を奪う戦争や紛争は止める必要があります。平和な世の中をつくるためにどうしたらいいか、学校でもみんなで考え続けていきたいと思っております。

海外の研修生との交流

～原子力機構の研修生徒との交流へ向けて～

東海村の小・中学校では国際交流の目的で毎年日本原子力機構東海事業所に海外から来日する研修生と交流会を行っています。小学校は毎年村内の1つの小学校から希望する6年生等が中心に参加しており、本年度は白方小学校の6年生の希望者が参加することになりました。白方小の児童や校内の様子、教育活動の様子、東海村の名所、茨城県の名所などを英語で紹介する予定です。その発表へ向けて希望する6年生が練習を始めました。担当の先生、NLTの先生と共に、英語で分かりやすく、相手の方が興味を高める話し方の練習をしています。

自分たちの発表の後には、海外から来日した研修生から、簡単な英語をつかって母国の紹介をしていただく時間があります。毎年アジア圏の国の研修生が多く、英語が母国語ではない場合もあります。国際的な公用語の英語を用いることで、海外の方とコミュニケーションをとることができることを実感する機会となります。

